



G-RAID® SHUTTLE 4/8/SSD

持ち運び可能なハードウェア RAID ストレージシステム

ユーザーマニュアル



サポートへのアクセス

- オンラインテクニカルサポートについては、sandiskprofessional.com/support をご覧ください
- テクニカルサポートへのお問い合わせについては次をご覧ください。andisk.com/about/contact/customer-care

目次

サポートへのアクセス.....	i
-----------------	---

第 1 章 : はじめに..... 1

ようこそ.....	1
安全上の注意事項.....	1
取り扱い上の注意.....	2

第 2 章 : 設定..... 3

パッケージの内容.....	3
システム条件.....	3
G-RAID ソフトウェアユーティリティをインストールする.....	4

第 3 章 : G-RAID Shuttle ハードウェア..... 6

概要.....	6
G-RAID Shuttle 4 と G-RAID Shuttle SSD.....	6
フロントパネル (G-RAID Shuttle 4)	6
フロントパネル (G-RAID Shuttle SSD)	7
リアパネル.....	8
G-RAID Shuttle 8	9
フロントパネル.....	9
リアパネル.....	10
ドライブアクティビティ LED.....	11
警告 LED とアラーム.....	11
デジチェーン、USB-C™モード、USB Power Delivery.....	12
USB-C™モード.....	12
USB Power Delivery.....	12

第 4 章 : G-RAID ソフトウェアユーティリティ..... 13

概要.....	13
メニューバー.....	13
ツールバーアイコン.....	13
ユーザーインターフェースのロックを解除する.....	14
サービスレポートを保存する.....	14

ファームウェアを更新する.....	14
-------------------	----

第 5 章 : ディスクアレイと論理ドライブを管理する..... 16

ディスクアレイと論理ドライブを手動で作成する.....	16
ディスクアレイの構築.....	16
論理ドライブの作成.....	16
ウィザードを使用してディスクアレイと論理ドライブを作成する.....	17
[Wizard] (ウィザード) ダイアログボックス.....	17
自動構成.....	18
エクスプレス構成.....	18
アドバンス構成.....	19
タスク 1 - ディスクアレイの作成.....	19
タスク 2 - 論理ドライブの作成.....	19
タスク 3 - スペアドライブの作成.....	20
タスク 4 - まとめ.....	20
ディスクアレイを再構築する.....	21
手動で再構築を実行する.....	21

第 6 章 : 不良ドライブの交換.....22

アラームをミュートする.....	22
故障したドライブを特定し交換する.....	22

第 7 章 : サポート..... 24

テクニカルサポート.....	24
一般的な RAID レベル.....	24

第 8 章 : 重要な情報.....26

安全上の注意.....	26
サービスを受けるには.....	26
製品保証 - オーストラリアを除く.....	26
製品保証 - オーストラリア.....	27
規制遵守.....	28
Regulatory Compliance - FCC.....	28
Safety Compliance - US and Canada.....	28
規制遵守 - CE.....	28
Regulatory Compliance - Austria.....	29
Regulatory Compliance - Japan.....	29
Regulatory Compliance - Korea.....	29
Regulatory Compliance - Russia.....	29
Regulatory Compliance - China.....	30

Regulatory Compliance - Taiwan.....	30
索引.....	32

はじめに

ようこそ

40 Gb/s Thunderbolt™ 3 および 10 Gb/s USB-C™ インターフェーステクノロジーを搭載した SanDisk® Professional G-RAID® Shuttle をご購入いただきありがとうございます。G-RAID Shuttle ストレージシステムは、プロフェッショナルなコンテンツ作成アプリケーション向けに特化して設計されており、アプリケーションパフォーマンスとデータ保護の両方の RAID 機能を提供します。Shuttle 4 では RAID 0、1、1E、5、10、JBOD、Shuttle 8 では RAID 0、1、1E、5、6、10、50、60、JBOD、SSD では RAID 0、1、1E、5、10、50、JBOD をサポートしています。

このドライブは Thunderbolt™ 3 テクノロジーをサポートしており、最大 2800 MB/秒**のデータ帯域幅（容量とホストデバイスによって異なります）で、高速かつ同時のデータストリームを可能にします。これにより、帯域幅を大量に消費する 4K、8K、VR ワークフローを使用するコンテンツ制作プロフェッショナルは大幅に時間を節約でき、マルチストリームの可能性が広がります。2つの双方向ポートにより、外部ディスクドライブ、ビデオキャプチャデバイス、外部ディスプレイなど、最大 6 つの高速 Thunderbolt 周辺機器を簡単にデジチェーン接続できます。G-RAID Shuttle デバイスは、Final Cut Pro®、Adobe Premiere®、Avid™ Media Composer など、業界で最も要求の厳しいプロフェッショナルコンテンツ作成アプリケーションをサポートします。

安全上の注意事項

以下の注意事項を守らなかった場合、G-RAID Shuttle の保証が無効になることがあります。ドライブに問題がある場合は、テクニカルサポートにお問い合わせください。製品が不適切な取り扱いによって損傷し返送された場合、保証は無効となり、責任はユーザーにあります。「製品保証」をお読みください。

- **修理**：ドライブにはユーザーサービス可能な部品は含まれていません。故障していると思われる場合は、資格のあるテクニカルサポート担当者に点検を依頼してください。
- **湿気**：デバイスは湿気や液体の近くに置かないでください。損傷のリスクを減らすために、このドライブを雨や湿気にさらさないでください。湿った状態や濡れた状態では使用しないでください。液体が開口部にこぼれる可能性があるため、液体を含む物体は絶対にドライブに置かないでください。
- **換気**：デバイスは通気性の良い場所に設置してください。ドライブは放射器や熱源の近く、または上に置かないでください。
- **温度**：このドライブを 5°C~35°C (41°F~95°F) の範囲外の温度にさらさないでください。また、5%~80%を超える動作湿度（結露なきこと）、また

- は10%~90%を超える非動作湿度（結露なきこと）にさらさないでください。ドライブを熱源の近くに置いたり、日光にさらしたり（窓越しを含む）、寒すぎる環境や湿気の多すぎる環境に設置したりしないでください。
- **物理的な損傷**：ドライブの上に重い物を置かないでください。ドライブに過度の力をかけないでください。

取り扱い上の注意

SanDisk Professional 製品は精密機械です。丁寧にお取り扱いください。乱暴な取り扱い、衝撃、振動を与えると、本製品が損傷することがあります。常に次の安全上の注意事項を守ってください。

- G-RAID Shuttle のコネクタには触れないでください。
- 筐体の通風孔を塞がないでください。
- G-RAID Shuttle デバイスは常に上部のハンドルを使用して持ち上げ、必要に応じて底部の下にもう一方の手を当てて安定させます。
- 本製品のラベルを剥がしたり、損傷したり、覆ったりしないでください。
- G-RAID Shuttle デバイスの最大動作時温度を超えないようにしてください。
- G-RAID Shuttle デバイスは熱くなることがあるため、G-RAID Shuttle デバイスを取り扱う際は注意してください。

2

設定

パッケージの内容

ボックスには、次のアイテムが含まれています。

- G-RAID Shuttle ストレージシステム
- 取り外し可能なエンタープライズクラスのドライブモジュール（ユニットに取り付け）
- Thunderbolt™ 3 ケーブル（40 Gbps）（x 1）
- 電源コード
- クイックスタートガイド
- 5年間の製品保証

アイテムが見つからない場合は、SanDisk Professional サポートにお問い合わせください。

- <https://support-en.sandiskprofessional.com/app>

最新の G-RAID Shuttle ユーザーマニュアルとユーティリティをダウンロードします。

- G-RAID Shuttle 4
 - <https://support-en.sandiskprofessional.com/app/products/product-detail/p/2377>
- G-RAID Shuttle 8
 - <https://support-en.sandiskprofessional.com/app/products/product-detail/p/2375>
- G-RAID Shuttle SSD
 - <https://support-en.sandiskprofessional.com/app/products/product-detail/p/2378>

システム条件

G-RAID Shuttle は、次のオペレーティングシステムをサポートしています。

- macOS 10.15 以降
- Windows10 以降（フォーマットが必要）

G-RAID Shuttle は、パフォーマンスを最大化するように出荷時には RAID 5 に構成されていますが、RAID 0、1、1E、5、6、10、50、60、JBOD をサポートし、さまざまな用途に対応するフレキシブルなストレージソリューションです。

G-RAID ソフトウェアユーティリティをインストールする

G-RAID Shuttle デバイスは、RAID 5 に事前設定された状態で出荷され、構成なしで購入後すぐに使用できます。ただし、SanDisk Professional では、デバイスの構成を変更する予定がない場合でも、G-RAID ソフトウェアユーティリティをインストールすることを推奨しています。このアプリケーションは、システムをモニタリングしたりファームウェアアップデートを取得したりする際に便利です。

また、このユーティリティは、筐体のデフォルトの RAID 構成 (RAID 5) を変更する場合や、事前に設置されたハードディスクドライブを交換する場合に必要です。G-RAID ソフトウェアユーティリティのインストールパッケージは、SanDisk Professional の Web サイトにあり、簡単にダウンロードできます。

以下の手順を実行すると、G-RAID ソフトウェアユーティリティを簡単にインストールできます。

1. 次のページから、お使いの G-RAID デバイスとオペレーティングシステムに応じた G-RAID ソフトウェアユーティリティをダウンロードします。

- [G-RAID Shuttle 4](#)
- [G-RAID Shuttle SSD](#)
- [G-RAID Shuttle 8](#)

2. インストールソフトウェアパッケージのに入った仮想ドライブをマウントします。*

*.dmg ファイルと.pkg ファイルのバージョン番号は、更新時に変わります。

3. ソフトウェアパッケージをダブルクリックしてインストールを開始します。

導入ウィンドウでは、ソフトウェアがパソコンにインストールされることが説明されます。ソフトウェアの使用許諾契約を確認できます。準備ができたなら、**[続行]** ボタンをクリックして次に進みます。

4. ソフトウェアの使用許諾契約が表示されます。内容を読んで、**[続行]** をクリックして次に進みます。
5. 使用規約に同意する場合は **[同意する]** をクリックします。ライセンスを読むには、**[Read License]** (ライセンスを読む) をクリックします。規約に同意しない場合は **[Disagree]** (同意しない) を選択します。この場合、インストール手順が終了します。
6. **[インストール]** をクリックして、インストールプロセスを開始します。
7. G-RAID Shuttle ソフトウェアユーティリティが間もなくインストールされます。完了すると、インストールが成功したことを知らせるメッセージが表示されます。**[閉じる]** をクリックして、インストール手順を完了します。

G-RAID Shuttle の管理に役立つ G-RAID ソフトウェアユーティリティが利用可能になりました。アレイ構成の変更、システム情報の取得、筐体ファームウェアの更新が必要な場合は、このツールを使用します。このユーティリティツールは、ストレージシステムのステータスの監視やトラブルシューティ

ングにも使用できます。ウィザードメニューの使用方法やさまざまな RAID アレイ構成の構成方法など、G-RAID Shuttle の使用方法の詳細については、「**Managing the Disk Array**」(ディスクアレイの管理)の章を参照してください。

3

G-RAID SHUTTLE ハードウェア

概要

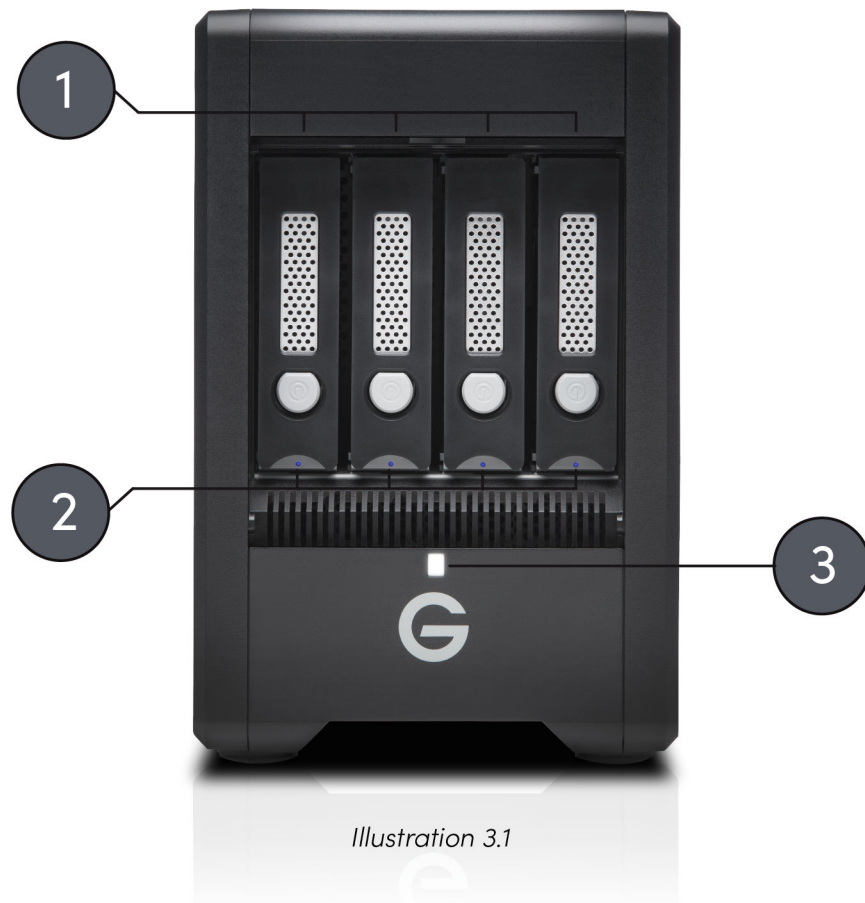
G-RAID Shuttle は、RAID 5 で事前設定された状態で工場から出荷されます。RAID コントローラは、保護された RAID モードもサポートしています。Shuttle 8 では RAID 0、1、1E、5、6、10、50、60、JBOD、Shuttle 4 では RAID 0、1、1E、5、10、JBOD、SSD では RAID 0、1、1E、5、10、50、JBOD をサポートしています。これらの RAID レベルの説明については、サポートの第 6 章の「**RAID レベル**」を参照してください。

G-RAID SHUTTLE 4 と G-RAID SHUTTLE SSD

フロントパネル (G-RAID Shuttle 4)

以下の図 3.1 を参照してください。

1. 取り外し可能なディスクドライブ
2. ドライブモジュールの電源/アクティビティ LED
3. LED インジケータ



フロントパネル（G-RAID Shuttle SSD）

以下の図 3.2 を参照してください。

1. 取り外し可能なディスクドライブ
2. ドライブモジュールの電源/アクティビティ LED
3. LED インジケータ

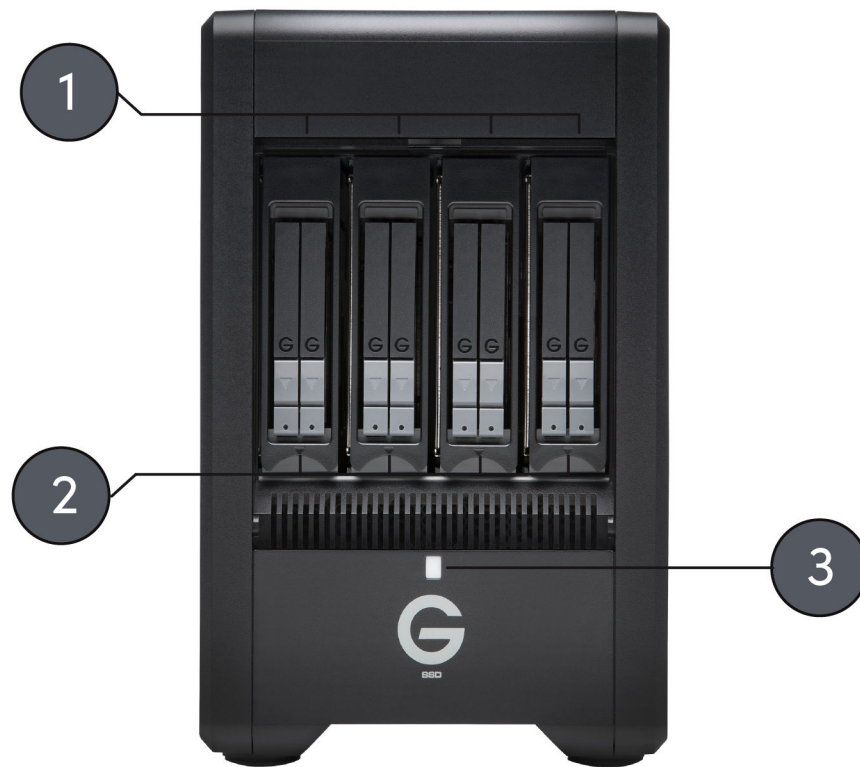


Illustration 3.2

リアパネル

以下の図 3.3 を参照してください。

1. スマート冷却ファン
2. アラームミュートボタン
3. Thunderbolt 3 ポート
4. 電源ボタン

5. Kensington スロット
6. AC 入力



Illustration 3.3

G-RAID SHUTTLE 8

フロントパネル

以下の図 3.4 を参照してください。

1. 取り外し可能なディスクドライブ
2. ドライブモジュールの電源/アクティビティ LED
3. LED インジケータ

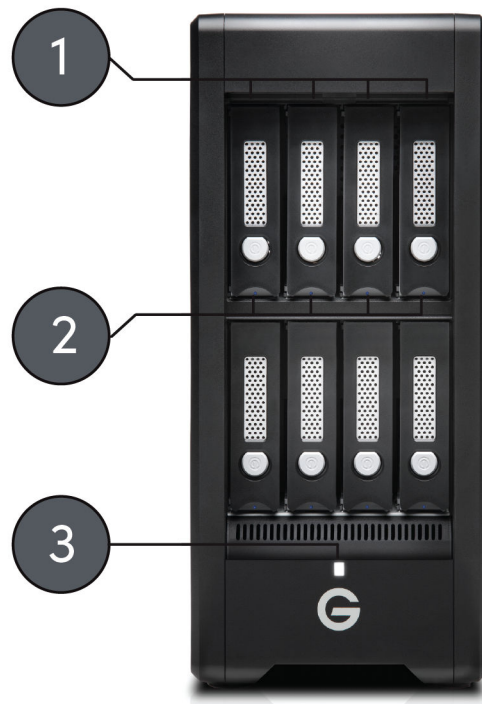


Illustration 3.4

リアパネル

以下の図 3.5 を参照してください。

1. スマート冷却ファン
2. アラームミュートボタン
3. Thunderbolt 3 ポート
4. 電源ボタン
5. Kensington スロット
6. AC 入力

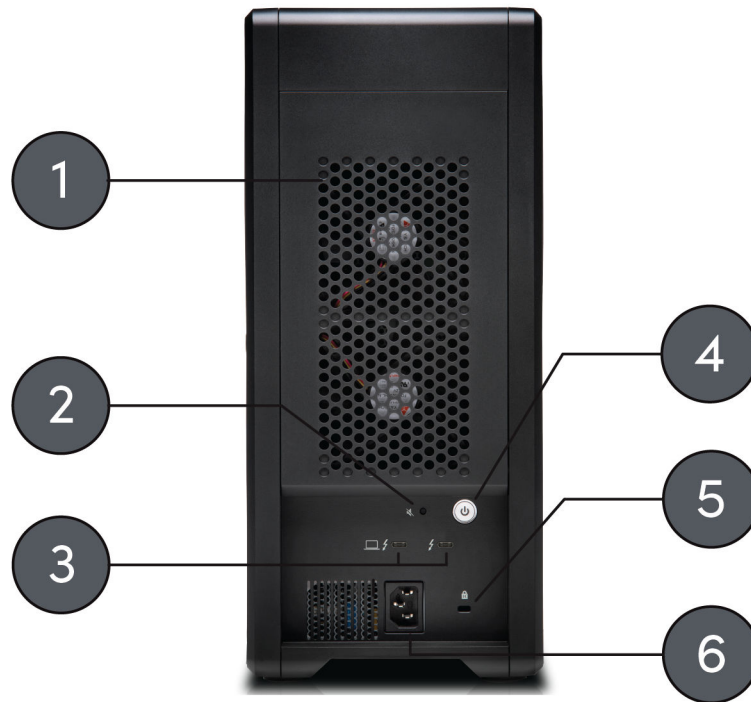


Illustration 3.5

ドライブアクティビティ LED

通常の動作では、各 G-RAID HDD または SSD モジュールの LED は青色に点灯します。これは、RAID コントローラに接続していることを示します。ドライブにアクセスすると、LED が点滅します。

警告 LED とアラーム

G-RAID Shuttle の筐体には、以下のいずれかの状態になると鳴る、音によるアラームまたはブザーが内蔵されています。

- 内部温度が 60°C を超えた
- メイン冷却ファンが故障した
- ファンがシステムを十分に冷却できない状態まで減速した

アラームを消すには、上述のように G-RAID Shuttle の背面にあるアラームミュートボタンを押します。

音によるアラームに加えて、G-RAID Shuttle の前面にある LED が赤色に点灯します。

G-RAID ドライブモジュールに問題がある場合、モジュールの LED が赤色に点灯しドライブまたは RAID に問題があることを伝えます。G-RAID ソフトウェアユーティリティを起動して、ユーザーによる操作が必要かどうかを判断するか、サポートチームに連絡して、詳細なトラブルシューティングを依頼してください。

アラーム音が鳴り、G-RAID Shuttle の前面に赤色の警告 LED が点灯した場合は、筐体の使用を中止し、SanDisk Professional サポートに連絡してください。

デジチェーン、USB-C™モード、USB POWER DELIVERY

G-RAID Shuttle には 2 基の Thunderbolt 3 ポートが備わっています。1 つはパソコンを接続するためのものであり、その他は最大 5 台の追加のデバイスをデジチェーン接続するためのもので、複数のドライブ、4K ディスプレイなどをパソコンにひとつなぎに接続できます。複数の Thunderbolt デバイスを G-RAID Shuttle にデジチェーン接続するには、次の手順を実行します。

1. Thunderbolt 3 ケーブルを使用して、パソコン背面の Thunderbolt ポートの 1 つを G-RAID Shuttle の Thunderbolt ポート（パソコンアイコンが付いているポート）に接続します。
2. 別の Thunderbolt 3 ケーブルを使用して、G-RAID Shuttle の 2 番目の Thunderbolt ポートを 2 番目のデバイスのいずれかの Thunderbolt ポートに接続します。
3. 追加の Thunderbolt 3 ケーブルを使用して、後続のストレージ筐体または Thunderbolt 3 対応デバイスを、利用可能な Thunderbolt ポートを介してデジチェーンにリンクします。

USB-C™モード

G-RAID Shuttle のポートは、USB-C™（10Gbps）を介した高速転送もサポートします。

USB Power Delivery

USB-C™ポートを経由して USB Power Delivery で最大 85 ワットの受給電をサポートする G-RAID Shuttle デバイスは、バッグから MacBook の AC アダプタを取り出すことなく、対応 MacBook や MacBook Pro を充電できます。

4

G-RAID ソフトウェアユーティリティ

概要

G-RAID ソフトウェアユーティリティインターフェースは、特定の機能を使用するためのメニューとアイコンで構成されています。

メニューバー

メニューバーは、次のオプションで構成されています。

- **G-RAID ソフトウェアユーティリティ** - [About] (情報)、[Checking for Updates] (アップデートを確認)、[環境設定]、[Services] (サービス)、[非表示]、[終了]
- **表示** - [Show/Hide Toolbar] (ツールバーを表示/非表示)、[Customize Toolbar] (ツールバーをカスタマイズ)、[デバイス] (G-RAID Shuttle ユニット)
- **ダッシュボード** - ダッシュボードの表示
- **ストレージ** - [Wizard] (ウィザード)、[Disk Array List] (ディスクアレイリスト)、[Logical Drive List] (論理ドライブリスト)、[Spare Drive List] (スペアドライブリスト)
- **管理者** - [システム情報]、[イベント]、[Background Activities] (バックグラウンドアクティビティ)、[System Updates] (システム更新)、[Performance Monitor] (パフォーマンスモニター)、[Restore Factory Defaults] (工場出荷時のデフォルトの復元)
- **Window** (ウィンドウ) - [最小化する]、[ズーム]、[Close Window] (ウィンドウを閉じる)、[すべて前に移動]、[G-RAID Shuttle unit] (G-RAID Shuttle ユニット)
- **ヘルプ** - オンラインヘルプとサポートサイトへのリンク

ツールバーアイコン

ダッシュボードの上部ツールバーには、次のアイコンが表示されます。

- **ダッシュボード** - ダッシュボードと概要を表示します
- **Wizard** (ウィザード) - RAID アレイを迅速に設定するためのウィザードオプションを表示します
- **物理ドライブ** - 物理ドライブのリスト、設定、機能を表示します
- **ディスクアレイ** - ディスクアレイの監視、管理、作成用のメニューを表示します
- **論理ドライブ** - 論理ドライブのリスト、設定、機能を表示します
- **システム情報** - G-RAID Shuttle の情報と設定を表示します
- **イベント** - イベントログを表示します

- **Background Activity** (バックグラウンドアクティビティ) – バックグラウンドタスクを表示または実行します

ユーザーインターフェースのロックを解除する

デフォルトでは、ユーザーインターフェース (UI) は RAID システムへの不正な変更を防ぐためにロックされています。UI がロックされている場合、論理ドライブを作成したり、G-RAID Shuttle の設定を変更したりすることはできません。

UI のロックを解除するには、次の手順を実行します。

1. [G-RAID Software Utility] (G-RAID ソフトウェアユーティリティ) ウィンドウの左下にある、閉じたロックアイコンをクリックします。
2. G-RAID ソフトウェアユーティリティのパスワードダイアログボックスが開きます。[パスワード] フィールドにパソコンのパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
3. 閉じたロックアイコンが開いたロックアイコンに変わります。
4. これで、論理ドライブの追加と削除、設定の変更、バックグラウンドアクティビティの実行、G-RAID Shuttle の更新を実行できるようになりました。

サービスレポートを保存する

サービスレポートは、テクニカルサポートでトラブルシューティングを行ったり、デバイスの問題を診断したりする際に役立ちます。

サービスレポートをパソコンに保存するには、次の手順を実行します。

1. [システム情報] リンクをクリックします。
2. [Save Service Report] (サービスレポートを保存) をクリックします。
3. サービスレポートを含む HTML ファイルの保存先を尋ねるプロンプトが表示されます。場所を選択し、[保存] をクリックします。
4. テクニカルサポートの担当者が、システム分析用にこのファイルをメールで送信するようお願いする場合があります。

ファームウェアを更新する

コントローラとシステムハードウェアの最適なパフォーマンスを得るには、G-RAID Shuttle ファームウェアを最新の状態にしておくことをお勧めします。SanDisk Professional サポートウェブサイト (<https://support-en.sandiskprofessional.com/>) から最新のファームウェアをダウンロードし、ファームウェアファイルをパソコンに保存します。更新プロセスが完了したら、パソコンを再起動して変更を有効にする必要があります。

コントローラファームウェアを更新するには：

1. デスクトップ上部のメニューバーの [管理者] ドロップダウンメニューから、[System Update] (システム更新) を選択します。
2. 南京錠アイコンをクリックしてメニューのロックを解除し、プロンプトが表示されたらパソコンのパスワードを入力します。
3. [ファイルを選択] をクリックし、SanDisk Professional サポートウェブサイトからダウンロードしたファームウェアファイルを探します。

4. [送信] をクリックします。
5. [確認] ボックスの該当するフィールドに「**CONFIRM**」と入力し、[確認] をクリックします。
6. このプロセスには数秒かかります。完了すると、パソコンを再起動するよう求められます。パソコンを再起動し、G-RAID Shuttle の使用を続行します。

5

ディスクアレイと論理ドライブを管理する

ディスクアレイと論理ドライブを手動で作成する

ディスクアレイを使用すると、ハードディスクまたはソリッドステートドライブのグループ全体でデータを整理できます。ディスクアレイの上には1つ以上の論理ドライブを作成できます。

論理ドライブはパソコンにマウントされるものであり、単一の名前空間または個別のドライブとして表示されます。論理ドライブは、ディスクのファイル形式が定義されている場所であり、システムがファイルを保存する場所でもあります。

ディスクアレイの構築

この機能はディスクアレイのみを構築します。ウィザードを使用して、論理ドライブとスペアドライブを同時に持つディスクアレイを作成することもできます。

ディスクアレイを構築するには：

1. [ダッシュボード] メニューから、[Disk Array] (ディスクアレイ) リンクをクリックします。
2. [ディスクアレイの構築] をクリックします。
3. デフォルトを受け入れるか、変更を加えます。
 - [Alias] (エイリアス) フィールドに、最大 32 文字 (文字、数字、文字間のスペース) のエイリアスを入力します。
 - **Enable Media Patrol** (メディアパトロールを有効化) - このアレイで無効にするには、チェックを外します。
 - **Enable PDM** (PDM を有効化) - このアレイで無効にするには、チェックを外します。
4. [Select Physical Drives] (物理ドライブを選択) 図で、ドライブをクリックしてアレイに追加します。ドライブキャリアをクリックすると青色に変わります。物理ドライブの ID 番号は、図の下のフィールドに表示されます。
5. 設定と選択が完了したら、[送信] をクリックします。

新しいアレイがリストに表示されます。

- ディスクアレイの構築が完了したら、[終了] をクリックします。
- 追加のディスクアレイを構築するには、[Create More] (さらに構築) をクリックします。

ディスクアレイを構築したら、その上に論理ドライブを構築する必要があります。

論理ドライブの作成

この機能は論理ドライブのみを作成します。ウィザードを使用して、論理ドライブとスペアドライブを同時に持つディスクアレイを作成することもできます。「**Creating a Disk Array and Logical Drive with Wizard**」(ウィザードを使用したディスクアレイと論理ドライブの作成) を参照してください。

論理ドライブを手動で作成するには：

1. 次のいずれかの操作を選択します。

- [Logical Drive] (論理ドライブ) アイコンをクリックします。
 - [ストレージ] メニューから、[Logical Drive] (論理ドライブ) を選択します。
2. [論理ドライブの作成] をクリックします。
 3. 使用するディスクアレイのラジオボタンをクリックし、[次へ] をクリックします。
 4. デフォルトを受け入れるか、以下から変更を行います。
 - オプション。[Alias] (エイリアス) フィールドに最大 32 文字 (文字、数字、スペース) のエイリアスを入力します。
 - [RAID レベル] を選択します。RAID レベルの選択は、ディスクアレイの物理ドライブの数に一部依存します。
 - [容量] フィールドで、デフォルトの最大容量を受け入れるか、最大容量より小さい容量を MB、GB、TB 単位で入力します。残りの容量は、追加の論理ドライブで使用できます。
 - ストライプのサイズを選択します。64KB、128KB、256KB、512KB、1MB を利用できます。
 - セクターサイズを選択します。512KB、1KB、2KB、4KB を利用できます。
 - 読み取り (キャッシュ) ポリシーを選択します。[Read Cache] (読み取りキャッシュ)、[Read Ahead] (先読み)、[No Cache] (キャッシュなし) を利用できます。
 - 書き込み (キャッシュ) ポリシーを選択します。[Write Back] (ライトバック) と [Write Through (Thru)] (ライトスルー (スルー)) を利用できます。
- 読み取りキャッシュが NoCache に設定されている場合、書き込みキャッシュは常に WriteThru に設定されます。
- G-RAID ソフトウェアユーティリティで論理ドライブをフォーマットする場合は、[フォーマット] ボックスにチェックを入れたままにします。
5. [追加] をクリックします。新しい論理ドライブが右側のリストに表示されます。容量が残っている場合は、追加の論理ドライブを作成できます。G-RAID Shuttle (8) は最大 32 個の論理ドライブをサポートします。
 6. 終了したら、[送信] をクリックします。新しい論理ドライブが論理ドライブリストに表示されます。

新しいボリュームがデスクトップに表示されます。

ウィザードを使用してディスクアレイと論理ドライブを作成する

G-RAID ソフトウェアユーティリティには、ディスクアレイ、論理ドライブ、スペアドライブを設定するためのウィザードが用意されています。ウィザードを開くには、[ストレージ] メニューをクリックして [Wizard] (ウィザード) を選択します。[Wizard] (ウィザード) ダイアログボックスが開きます。構成には、自動、エクスプレス、アドバンスの 3 つの方法を使用できます。

[Wizard] (ウィザード) ダイアログボックス

以下の表に従って、ニーズに最適な方法を選択します。

方法	ユーザーオプション	推奨される対象ユーザー
自動	なし	データストレージの初心者

方法	ユーザーオプション	推奨される対象ユーザー
エクスプレス	一般的なパラメータ	データストレージに精通しているユーザー
アドバンス	個々のパラメータ	データストレージのプロフェッショナル

自動構成

自動構成ウィザードを使用するには：

1. [ストレージ] メニューから、[**Wizard**] (ウィザード) を選択します。
2. [**自動**] ボタンをクリックします。

[自動構成] ダイアログボックスが表示されます。

次のいずれかの操作を行います。

- 提案された構成に同意する場合は、[送信] ボタンをクリックします。ウィザードによってディスクアレイと論理ドライブが作成されます。ウィザードではスペアドライブを作成することもできます。
- 提案された構成に同意しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックして元の [自動構成] メニューに戻ります。

エクスプレス構成

エクスプレス構成ウィザードを使用するには：

1. [ストレージ] メニューから、[**Wizard**] (ウィザード) を選択します。
2. [**Express**] (エクスプレス) ボタンをクリックします。

[エクスプレス構成] ダイアログボックスが表示されます。

3. 以下のいずれかまたは組み合わせを選択するには、チェックボックスにチェックを入れます。
 - **データ冗長性** - 物理ドライブに障害が発生した場合も、アレイを引き続き使用できます
 - **メディア容量** - データ容量の最大容量
 - **ドライブパフォーマンス** - 可能な限り最大の読み出し/書き込み速度
 - **スペアドライブ** - ホットスペアドライブを作成するには、チェックボックスにチェックを入れます
 - **Number of Logical Drives** (論理ドライブの数) - 作成する論理ドライブの数を入力します
 - **Application Type** (アプリケーションタイプ) - ストレージの使用方法を選択します
4. [Number of Logical Drives] (論理ドライブの数) フィールドに、このディスクアレイから作成する論理ドライブの数を入力します。
5. [**Application Type**] (アプリケーションタイプ) のドロップダウンメニューから、論理ドライブの使用目的に最も近いアプリケーションを選択します。
6. [**次へ**] ボタンをクリックして続行します。

ディスクアレイ、論理ドライブ、作成しようとしているスペアドライブに関する情報が、[概要] ダイアログボックスに表示されます。

次のいずれかの操作を実行します。

- これらのパラメータを受け入れる場合は、[送信] ボタンをクリックします。
- ウィザードによって、ディスクアレイ、論理ドライブ、スペアドライブが作成されます。
- これらのパラメータを受け入れない場合は、[戻る] ボタンをクリックし、選択内容を確認して変更します。
 - [キャンセル] を押すと、構成がまとめて解除されます。

アドバンス構成

このオプションを使用すると、新しいディスクアレイ、論理ドライブ、スペアドライブの追加パラメータを指定できます。

アドバンス構成ウィザードを使用するには：

1. [ストレージ] メニューから、[Wizard] (ウィザード) を選択します。
2. [アドバンス] ボタンをクリックします。

[To Create Disk Array] (ディスクアレイを作成するには) 画面が表示されます。

タスク 1 – ディスクアレイの作成

ディスクアレイを作成するには：

1. デフォルトを受け入れるか、次のいずれかを変更します。
 - [Alias] (エイリアス) フィールドに、最大 32 文字 (文字、数字、文字間のスペース) のエイリアスを入力します。
 - **メディアパトロール** - このアレイで無効にするには、チェックを外します。
 - **PDM** - このアレイで無効にするには、チェックを外します。
2. [Select Physical Drives] (物理ドライブを選択) 図で、目的のドライブをクリックしてアレイに追加します。ドライブキャリアをクリックすると青色に変わります。物理ドライブの ID 番号は、図の下のフィールドに表示されます。
3. [次へ] をクリックします。

[論理ドライブの作成] 画面が表示されます。

タスク 2 – 論理ドライブの作成

論理ドライブを作成するには：

1. 情報を入力し、オプションを選択します。
 - 該当するフィールドに論理ドライブのエイリアスを入力します。
 - ドロップダウンメニューから RAID レベルを選択します。最大容量値を書き留めておき、該当するフィールドに容量値を入力し、ドロップダウンメニューから測定単位を選択します。
 - 容量の値を入力し、適切な測定サイズ単位 (MB、GB、TB) を選択します。

- ストライプのサイズを選択します。64 KB、128 KB、256 KB、512 KB、1 MB を利用できます。
 - セクターサイズを選択します。512B、1KB、2KB、4KB を利用できます。
 - 読み取りキャッシュポリシーを選択します。[Read Cache] (読み取りキャッシュ)、[Read Ahead (cache)] (先読み (キャッシュ))、[Cache] (なし) の選択肢があります。
 - 書き込み (キャッシュ) ポリシーを選択します。WriteThru と WriteBack の選択肢があります。WriteBack には ReadCache または Read Ahead (先読み) /Read Cache (読み取りキャッシュ) ポリシーが必要です。
 - ユーティリティで論理ドライブをフォーマットする場合は、[Format] (フォーマット) ボックスのチェックを入れたままにします。
2. [追加] をクリックします。新しい論理ドライブが右側のリストに表示されます。容量が残っている場合は、追加の論理ドライブを作成できます。
 3. [次へ] をクリックします。

[Create Spare Drive] (スペアドライブの作成) 画面が表示されます。

タスク 3 – スペアドライブの作成

スペアドライブを作成するには：

1. 以下の各項目について、デフォルトを受け入れるか、必要に応じて以下の設定を変更します。
 - 復元可能なスペアドライブが必要な場合は、[Revertible] (復元可能) ボックスにチェックを入れます。ディスクアレイの故障した物理ドライブを交換し、移行機能を実行すると、復元可能なスペアドライブはスペアドライブの割り当てに戻ります。
 - **グローバル** – 任意のディスクアレイでスペアを使用できます。
 - **Dedicated** (専用) – 現在作成しているディスクアレイでのみ動作するようにドライブを制限します。
2. [Select Physical Drives] (物理ドライブを選択) 図で、スペアに選択するドライブをクリックします。クリックすると、ドライブキャリアが青色に変わります。物理ドライブの ID 番号は、図の下のフィールドに表示されます。
3. [次へ] をクリックします。

[概要] 画面が表示されます。

タスク 4 – まとめ

1. ディスクアレイ、論理ドライブ、スペアドライブの選択内容を確認します。
 - 変更を加えるには、[戻る] をクリックして該当する画面に移動します。
 - 受け入れるには、[送信] をクリックします。ディスクアレイ、論理ドライブ、スペアドライブの作成には、多少時間がかかります。
2. [Select Physical Drives] (物理ドライブを選択) 図で、目的のドライブをクリックしてアレイに追加します。ドライブキャリアをクリックすると青色に変わります。物理ドライブの ID 番号は、図の下のフィールドに表示されます。
3. [終了] をクリックして閉じます。

ディスクアレイを再構築する

ディスクアレイを再構築すると、実際には、他のドライブに保持されている冗長データから、1つ以上の物理ドライブのデータが再構築されます。十分な容量のスペアドライブがない場合は、故障したドライブを未構成の物理ドライブと交換してから、手動による再構築を実行する必要があります。

ドライブが故障したキャリアでは、ドライブの電源/ステータス LED が赤色になります。

手動で再構築を実行する

手動で再構築を実行するには：

1. [**Background Activities**] (バックグラウンドアクティビティ) アイコンをクリックします。
2. [**再構築**] にマウスをポイントし、[**開始**] をクリックします。
3. [**Source Physical Drive**] (ソース物理ドライブ) ドロップダウンメニューから、[**ソース**] ディスクアレイと物理ドライブを選択します。アレイには ID 番号があります。物理ドライブにはシーケンス番号があります。
4. [**Target Physical Drive**] (ターゲット物理ドライブ) ドロップダウンメニューから、[**ターゲット**] 物理ドライブを選択します。
5. [確認] ボックスの所定のフィールドに、「CONFIRM」と入力し、[**確認**] をクリックします。ディスクアレイの再構築中：
 - ディスクアレイには緑色のチェックアイコンが表示され、ステータスは「**再構築中**」になります。
 - ディスクアレイの下の論理ドライブには、引き続き黄色の「！」アイコンが表示され、ステータスは「**Critical, Rebuilding**」(重要、再構築中) になります。
 - ブザーが有効になっている場合は、G-RAID Shuttle デバイスは 5 秒ごとにピープ音を短く 2 回ならします。ピープ音が止まると、再構築は完了です。

不良ドライブの交換

G-RAID Shuttle RAID Controller は、G-RAID Shuttle デバイスの各ディスクドライブの健全性を継続的に監視します。ディスクに障害が発生した場合は、[Set Up Alert Notifications]（アラート通知を設定）で入力した通知設定に基づいてアラートが送信されます。G-RAID Shuttle が故障したドライブを報告し、G-RAID Shuttle デバイス筐体内の物理的な位置を特定できます。

アラームをミュートする

デフォルトで、G-RAID Shuttle では音によるアラームが有効になっています。ドライブが故障したり、その他の重大なイベントが発生した場合は、アラームが鳴ります。音によるアラームをミュートするには、筐体の背面にある [Alarm Mute]（アラームのミュート）ボタンを押すか、G-RAID ソフトウェアユーティリティを起動します。コントローラ設定の下にあるユーティリティには、アラームをミュートするために使用する [Buzzer]（ブザー）セクションがあります。

同じ場所にある [Sound]（サウンド）をクリックすると、アラームをテストできます。

注： G-RAID Shuttle が RAID 1 または RAID 5 モードで構成されている場合は、ドライブが故障しても必ずしもデータが失われるとは限りません。ただし、アレイは機能が低下した保護されていない状態で動作することになります。データ損失を避けるため、故障したドライブはできるだけ早く交換してください。

故障したドライブを特定し交換する

1. G-RAID ソフトウェアユーティリティを起動します。
2. [Physical Drive]（物理ドライブ）を選択します。
3. 物理ドライブリストにはすべてのドライブが表示されますが、故障したドライブの名前の横のステータスは [Dead]（故障）となります。
4. 故障したドライブを右クリックし、[Locate]（検索）を選択します。

警告： 必ず以下の手順に従って、該当するドライブを取り外してください。間違ったドライブを取り外すと、アレイが失われ、G-RAID Shuttle に保存されているすべてのコンテンツが失われる可能性があります。

5. 故障したドライブの LED は G-RAID Shuttle の筐体で点滅し始めるため、交換が必要なドライブを簡単に識別できます。間違ったドライブを取り外すとデータが失われる可能性があるため、必ず該当するドライブを取り外してください。

注： 故障したドライブは完全にオフラインになっている可能性があります。この場合、ドライブのアクティビティ LED が完全に消え、ドライブが故障していることを示します。

6. リリースボタンを押し、ドライブを筐体からスライドさせて、故障したドライブを取り外します。
7. 故障したドライブを新しいディスクモジュールと交換し、モジュールを固定します。ドライブが接続されると、G-RAID ソフトウェアユーティリティにアレイが再構築中であることが表示されます。再構築時間はテラバイトあたり約 2 時間になります。

再構築が完了すると、G-RAID Shuttle が正常な状態に戻り、最適な効率で貴重なデータを保護するようになります。

注： 交換製品または追加の G-RAID Shuttle HDD および SSD モジュールは、オンラインでご購入いただけます。

<https://www.westerndigital.com/brand/sandisk-professional>

サポート

テクニカルサポート

G-RAID Shuttle ストレージシステムをご購入いただきありがとうございます。本マニュアルまたは製品についてご意見やご質問がありましたら、お気軽にご連絡ください。

SanDisk Professional は、お客様に感謝し、お客様を大切にしています。最高のサービスとサポートを提供できるよう努めています。G-RAID Shuttle のインストールまたは使用中に問題が発生した場合は、以下の SanDisk Professional テクニカルサポートにご連絡ください。

<https://www.westerndigital.com/support/international-phone-numbers>

サポートに役立つ情報

テクニカルサポートにご連絡いただく際には、パソコンの前に座り、以下の情報をご用意いただくようにしてください。

- G-RAID Shuttle のシリアル番号（ユニットの下部）
- オペレーティングシステムとバージョン
- パソコンのモデル
- パソコンに接続されている他のデバイスのリスト

一般的な RAID レベル

RAID レベル	説明	メリット	デメリット	最適な用途
0	ディスクのストライピング	最大のパフォーマンスと、利用可能な総ストレージ容量の 100%を提供	フォールトトレランス（耐障害性）なし - アレイのドライブのいずれかが故障すると、データは完全に消失	最大のパフォーマンスとストレージ容量を必要とするコンテンツ作成アプリケーション
1	ミラーリング	最大レベルのデータ保護：同一のデータを複数のドライブに書き込む	2 台のドライブのみを使用する場合、使用可能なストレージ容量は合計容量の 50%	データの保護が最優先となるアプリケーション
5（事前設定済み）	パリティ付きディスクストライピング	高度な読み込み性能と中程度の書き込み性能、ドライブ故障時のデータ保護	使用可能なストレージ容量はアレイのすべてのドライブの合計容量から 1 台のドライブ容量を引いたもの	データ保護とパフォーマンスを必要とするコンテンツ作成アプリケーション

RAID レベル	説明	メリット	デメリット	最適な用途
10	2つ以上の均等に取得された RAID 1 アレイから構築	ミラーリングはデータ保護を提供し、ストライピングはパフォーマンスを向上させる	使用可能なストレージスペースは用意された容量合計の 50%	データ保護機能付きコンテンツバックアップおよびコンテンツ作成アプリケーション
JBOD	Just a Bunch Of Disks (単なる並列配置ディスク)	各ドライブは個別のボリュームとしてアクセス可能。使用可能なストレージ容量は、利用可能なストレージ全体の 100%	フォールトトレランスなし	オーディオアプリケーション

8

重要な情報

ご使用前の重要な情報

この製品を使用する前に、以下をよくお読みください。本取扱説明書はいつでも参照できるよう、大切に保管してください。

安全上の注意

その他の安全上の注意：

SanDisk Professional デバイスを直射日光にさらしたり、湿度の高い場所や極端な温度の場所に置いたりしないでください。SanDisk Professional デバイスを曲げたり、落としたりしないでください。本製品のユーザーは環境および安全仕様、ならびに他の使用条件にすべて従う責任を負っています。

台所、飲み物、お風呂、シャワー、雨の当たる場所など、水気のある場所に SanDisk Professional デバイスを近づけないでください。湿気により電子機器で感電が発生する可能性があります。SanDisk Professional デバイスを分解、破碎、短絡、焼却しないでください。火事、ケガ、やけど、その他の危険が生じる可能性があります。

処分方法について：

SanDisk Professional デバイスを分別していないゴミと一緒に廃棄しないでください。廃棄が適切になされない場合、環境や健康に害を及ぼす可能性があります。収集やりサイクルの方法に関しては、お住まいの地域の清掃事業課までお問い合わせください。

サービスを受けるには

SanDisk Professional はお客様のビジネスを尊重し、常に最高のサービスを提供するように努めています。万が一本製品に問題が発生した場合は、返品される前に弊社までお問い合わせをお願いいたします。テクニカルサポートに関するご質問の多くは、弊社のナレッジベースまたはメールでのサポートサービス (<http://www.sandiskprofessional.com/support>) で回答が得られます。

製品保証 - オーストラリアを除く

保証情報

この SanDisk Professional デバイスは、www.sandisk.com/wug で定義されているように、適用される保証条件に従って、購入日から 5 年間の限定保証（または「限定」が認められない地域では 5 年間の保証）の対象となります。

保証請求を行うには

保証請求の詳細については、<https://www.westerndigital.com/support> にアクセスし、[サポート] を選択してください（SanDisk Professional サポートページ）。

本製品に欠陥があると判断された場合、RMA 番号と本製品を返品する手順が通知されます。SanDisk Professional の製品保証に基づく請求にかかる一切の費用はお客様の負担となります。

RMA 番号で指定された住所に、製品を元払いで発送する必要があります。すべての保証請求には購入証明が必要です。

製品保証 - オーストラリア

保証情報

SanDisk Professional は、製品に付属する、または製品で提供されるコンテンツやソフトウェアを除き、この製品が製造時に重大な欠陥がなく、SanDisk Professional の公開済みの製品仕様に準拠し、購入日から 5 年間正常に使用でき、この製品が合法的に市販されていることをエンドユーザーに保証します。

この製品保証に基づいて請求を行う場合、SanDisk Professional はオプションでこの製品を修理するか、同等の製品を提供する場合があります。製品の修理または交換ができない場合は、購入価格を返金します。SanDisk Professional の保証および保証期間の条件については、www.sandisk.com/wug をご覧ください。

保証人の詳細

Western Digital Technologies, Inc., 951 SanDisk Drive, Milpitas, CA 95035, U.S.A.

電話：1 (800) 275-4932（米国内フリーダイヤル）または 1 (310) 449-4599（米国）

保証請求を行うには：

製品を返品する前に、まず返品承認（RMA）番号を取得する必要があります。次のいずれかを行ってください。

1. 1 800 262 504（M-F | 9 am ~ 6 pm、ニューサウスウェールズ時間）にて SanDisk Professional に連絡するか、SanDisk Professional (support@sandiskprofessional.com) に、購入証明（購入日と購入場所、販売代理店の名前を記載）と製品名、製品タイプ、型番を記載したメールを送信する、または
2. 製品を最初に購入した販売店に連絡してください。

保証請求の詳細については、www.sandiskprofessional.com/support（SanDisk Professional サポートページ）にアクセスしてください。

本製品に欠陥があると判断された場合、RMA 番号と本製品を返品する手順が通知されます。SanDisk Professional の製品保証に基づく請求にかかる一切

の費用はおお客様の負担となります。RMA 番号で指定された住所に、製品を元払いで発送する必要があります。すべての保証請求には購入証明が必要です。

オーストラリアの消費者のみ：

この製品保証の条件にかかわらず、SanDisk Professional の製品には、オーストラリアの消費者法で除外されない保証が付帯しています。お客様は、重大な瑕疵については交換もしくは返金を、また、その他合理的に予測可能な損失もしくは損害に対しては補償を、それぞれ求める権利があります。また、製品が合格品質に達していないが、その欠陥が重大な瑕疵には相当しない場合、お客様はその製品を修理もしくは交換することができます。

規制遵守

Regulatory Compliance - FCC

FCC CLASS B INFORMATION

NOTE: This device has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This device generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this device does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the device off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the device and receiver.
- Connect the device into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

Any changes or modifications not expressly approved by the manufacturer could void the user's authority to operate the device.

Safety Compliance - US and Canada

安全準拠

米国およびカナダで承認済み。CAN/CSA-C22.2 No. 62368-1-14: Audio/Video, Information and Communication Technology Equipment Part 1: Safety Requirements.

Approuvé pour les Etats-Unis et le Canada. CAN/CSA-C22.2 No. 62368-1-14, Sûreté d'équipement de technologie de l'information.

規制遵守 - CE

ヨーロッパ CE 遵守

Western Digital は、この機器が、EMC 指令 (2014/30/EU)、低電圧指令 (2014/35/EU)、指令 2015/863/EU により修正された RoHS 指令 (2011/65/EU) など、該当する EU 理事会指令に準拠していることをここに宣言します。EU 適合宣言書の全文は、インターネットアドレス (<http://www.wdc.com/products/EUDoC>) から入手できます。

- PO Box 13379, Swords, Co Dublin, Ireland
- PO Box 471, Leatherhead, KT22 2LU, UK

Regulatory Compliance - Austria

CE-Konformität für Europa

Hiermit erklärt Western Digital die Konformität dieses Geräts mit den anwendbaren Richtlinien des Rats der Europäischen Union, einschließlich der Richtlinie 2014/30/EU zur elektromagnetischen Verträglichkeit, der Niederspannungsrichtlinie (2014/35/EU) und der Richtlinie 2011/65/EU zur Beschränkung der Verwendung von gefährlichen Stoffen sowie der Abänderung durch die Richtlinie (EU) 2015/863. Den vollständigen Text der EU-Konformitätserklärung finden Sie unter der folgenden Internetadresse: <http://www.wdc.com/products/EUDoC>.

Geprüfte Sicherheit

Maschinenlärminformations-Verordnung 3. GPSGV: Der höchste Schalldruckpegel beträgt 70 db(A) oder weniger gemäß EN ISO 7779, falls nicht anders gekennzeichnet oder spezifiziert.

Regulatory Compliance - Japan

この装置は、クラスB機器です。この装置は、住宅環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

添付の電源コードは、本製品専用です。接地接続は必ず、電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、接地接続を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離

Regulatory Compliance - Korea

기종별	사용자 안내문
B급 기기 (가정용 정보통신기기)	이 기기는 가정용으로 전자파 적합성 기준을 통과했으므로 주거 지역에서는 물론 모든 지역에서 사용할 수 있습니다.

Regulatory Compliance - Russia

Сведения о нормативно-правовом соответствии для России (EAC)

Уполномоченный представитель производителѐ в странах Таможенного союза: представительство Western Digital (UK) Limited (Великобританиѐ) в Москве. Россиѐ, 115054, Москва, Валоваѐ ул., 35.

На наклейке на изделии указан код, состоящий из 4 цифр, за которыми следует буква. Первые две цифры означают неделю финансового года Western Digital (с 1 июля по 30 июня следующего года), когда было произведено изделие. Следующие два цифры означают финансовый год Western Digital, когда было произведено изделие. Буква означает страну, где оно было произведено: А – Малайзиѐ, В – Таиланд, С – Китай, D – США, H – Венгриѐ, E – Бразилиѐ.

Настоящее изделие соответствует требованиям технических регламентов Евразийского экономического союза ТР ТС 004/2011, ТР ТС 020/2011, ТР ЕАЭС 037/2016.

Regulatory Compliance - China

有毒有害物质或元素

部件名称	产品中有毒有害物质或元素的名称及含量					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 (Cr (VI))	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
底盘外壳和镜头	○	○	○	○	○	○
减震器	○	○	○	○	○	○
塑料其它部件	○	○	○	○	○	○
组合电缆/电源	X	○	○	○	○	○
金属部件	X	○	○	○	○	○
固态驱动器/硬盘/电路板组合	X	○	○	○	○	○

本表格依据SJ/T 11364-2014的规定编制。
 ○：表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在GB/T 26572规定的限量要求以下。
 X：表示该有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出GB/T 26572规定的限量要求。
 (在此表中，企业可能需要根据实际情况对标记“X”的项目进行进一步的技术性解释。)

Regulatory Compliance - Taiwan

本裝置通過測試並符合 CNS-13438 (EMC) 和 CNS-14336-1 (Safety) 規範。

台灣 WD 地址：

台北市中山區松江路 223 號 17 樓

WD 產品是精密的儀器，將本產品從包裝中取出以及安裝時必須小心處理。處理不當、遭受撞擊或震動都可能使硬碟機受損。將外接儲存產品從包裝中取出以及安裝時請注意以下防護措施：

請勿摔落或敲擊本硬碟機。

當本裝置在作業期間，請勿移動本硬碟機。

設備名稱：硬式磁碟機 型號（型式）：SanDisk Professional series

單元	限用物質及其化學符號					
	鉛 (Pb)	汞 (Hg)	鎘 (Cd)	六价铬 (Cr (VI))	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
機箱外皮殼與鏡片	○	○	○	○	○	○
塑料其它部件	○	○	○	○	○	○
橡皮脚墊, 4 片	○	○	○	○	○	○
片金属部件	-	○	○	○	○	○
固態硬碟/硬碟/電路板組合	-	○	○	○	○	○
組合電纜線/電源	-	○	○	○	○	○
備考1. “超出0.1 wt %” 及 “超出0.01 wt %” 係指限用物質之百分比含量超出百分比含量基準 備考2. “○” 係指該項限用物質之百分比含量未超出百分比含量基準值 備考3. “-” 係指該項限用物質為排除項目。						

索引

記号

[Wizard] (ウィザード) ダイアログボックス [17](#)
安全準拠 - 米国およびカナダ [28](#)
安全上の注意 [26](#)
安全上の注意事項 [1](#)
規制遵守 - CE [28](#)
警告 [11](#)
警告 LED とアラーム [11](#)
故障したドライブを特定し交換する [22](#)
後ろパネル、G-RAID Shuttle [4](#) [8](#)
後ろパネル、G-RAID Shuttle [8](#) [10](#)
後ろパネル、G-RAID Shuttle SSD [8](#)
取り扱い上の注意 [2](#)
重要な情報 [26](#)
条件、システム [3](#)
注意事項、安全上の [1](#)
同梱物 [3](#)
不良ドライブの交換 [22](#)
物、同梱 [3](#)
保証情報 [26](#)
保証情報 - オーストラリア [27](#)

C

CE [28](#)
CSA [28](#)

E

EAC [29](#)

F

FCC [28](#)

G

G-RAID ソフトウェアユーティリティ [4](#)
G-RAID ソフトウェアユーティリティをインストールする [4](#)

L

LED、ドライブアクティビティ [11](#)
LED、警告とアラーム [11](#)

R

RAID レベル [24](#)
Regulatory Compliance - Austria [29](#)
Regulatory Compliance - China [30](#)
Regulatory Compliance - FCC [28](#)
Regulatory Compliance - Japan [29](#)

Regulatory Compliance - Korea [29](#)
Regulatory Compliance - Russia [29](#)
Regulatory Compliance - Taiwan [30](#)

U

USB Power Delivery [12](#)
USB-C モード [12](#)

あ

アドバンス構成 [19](#)
アラーム [11](#)
アラームをミュートする [22](#)

う

ウィザードを使用してディスクアレイと論理ドライブを作成する [17](#)

え

エクスペレス構成 [18](#)

お

オーストラリアの消費者のみ [27](#)

さ

サービスを受けるには [26](#)

し

システム条件 [3](#)

て

デジチェーン [12](#)
ディスクアレイを再構築する [21](#)
ディスクアレイを作成する [16](#)
テクニカルサポート [24](#)

と

ドライブアクティビティ LED [11](#)

は

ハードウェアの概要 [6](#)
パッケージの内容 [3](#)

ふ

フロントパネル、G-RAID Shuttle 4 [6](#)

フロントパネル、G-RAID Shuttle 8 [9](#)

フロントパネル、G-RAID Shuttle SSD [7](#)

よ

ようこそ [1](#)

Western Digital によって提供された情報は正確で信頼できるものと考えておりますが、その使用、あるいはその使用に起因した特許または第三者のその他の権利の侵害に関して Western Digital は一切責任を負いません。Western Digital の特許または特許権のもとで、黙示的またはその他の方法でライセンスが許可されることはありません。SanDisk、SanDisk のロゴ、SanDisk のデザイン、SanDisk Professional、SanDisk Professional のロゴ、G-RAID は、米国およびその他の国における Western Digital Corporation またはその関連会社の商標です。Thunderbolt および Thunderbolt のロゴは、米国および他の国における Intel Corporation の商標です。Apple、Mac、MacBook Pro および Time Machine は Apple, Inc. の商標です。Windows は、米国およびその他の国における Microsoft Corporation の商標です。その他の商標は各所有者に帰属します。写真は、実際の製品と異なる場合があります。製品仕様は予告なしに変更されることがあります。*ストレージ容量の単位は、1 テラバイト (TB) = 1 兆バイトです。実際の有効容量は、動作環境および RAID 構成により異なる場合があります。RAID 製品の場合、ストレージ容量は RAID 0 モードに基づきます。**転送速度またはインターフェースの単位は、1 MB/s = 毎秒 100 万バイトです。社内テストに基づきます。パフォーマンスは、ホスト機器、使用状況、ドライブの容量、RAID 構成、その他の要因により異なる場合があります。

Western Digital Technologies, Inc. は、米大陸における実績のある販売業者であり、SanDisk® 製品のライセンスを取得しています。

© 2023 Western Digital Corporation or its affiliates. All rights reserved.

Western Digital
951 SanDisk Drive
Milpitas, カリフォルニア 95035 U.S.A

D015-000064-AR00